

第9回MBI(マルチメディアを基礎にした教育)発表会 プログラム

日時：平成19年2月15日(木) 13:10～15:50

場所：101講義室

司会：石井 文由、日野 文男

- * 1 演題 20分 発表時間 15分 質疑 5分
- ° 登壇者

0. 13:10～13:20

開会の辞 岸野 史志

1. 13:20～13:40

テーマ：電子カルテシステムを用いた新しい医療薬学教育構築の構想

越前 宏俊(薬物治療学教室)

要旨：医療情報を電子化して記録し利用することに診断や治療を効率化しヒューマンエラーの回避を目的として、基幹的な病院では電子カルテシステムの導入が急速に進んでいる。本学では平成18年度の文部科学省医療人GP助成事業の選定を受けて医療薬学教育電子カルテシステムの構築を開始した。

電子カルテシステムは、単に医療業務のツールとしてだけでなく、これを模擬患者さんの薬物治療症例データベース、医薬品データベース、薬物治療ガイドラインデータベース等とリンクさせて医療薬学教育のゲートウエーとして、医薬統計の業界標準ソフトウェアであるSPSSRや次年度以降の医療人GP事業で計画されている医療コミュニケーション教育のビデオコンテンツなどとも有機的にリンクさせることにより統合的でインタラクティブな教育システムを構築できる可能性を秘めている。今回の発表では、電子カルテシステムの構想を述べる。

2. 13:40～14:00

テーマ：明薬サイバーキャンパス：ハイビジョン教材の開発

梶原 正宏(薬品化学教室)

要旨：明治薬科大学は文部科学省選定平成15年度～20年度「明薬サイバーキャンパス整備事業」では学生が自主学習できるように、豊富で良質な薬学アーカイブスを簡便に構築・配信している。e-Learningシステムにより学生一人一人の個性に応じた確かな学力育成に応える設備基盤を準備できた。

18歳人口の減少と大学の乱立・大学統合の大きなうねりの中、大学も教員自身も大学での教育内容の改善・充実や教育方法の高度化を図ることが肝要である。先導的で良質な授業が求められる薬学教育に柔軟に対応するため高品質なマルチメディアを活用し薬学教育を拡充していく必要がある。これまでに導入製品や設備をより高いレベルで実践的かつ具体的に活用し、オンデマンド型配信に留まらず、卒論生等へのライブ型双方向教育を実施しさらにはデジタルハイビジョン動画教材を作成する。従来のe-learningシステムを超えたサイバーキャンパスの完成形を念頭にデジタルハイビジョン教材作成を試み、文字や微小な結晶や暗所でも従来にない高精細画像教材が作成できたので報告する。

3. 14:00～14:20

テーマ：サイバーキャンパスの統括管理システム

日野 文男^o、向日 良夫（薬学教育研究センター）

高取和彦、梶原正宏（薬品化学教室）

要 旨：平成18年度より第2期の明治薬科大学サイバーキャンパス整備事業が始まった。これまでストリーミング配信、薬剤師国家試験過去問システム、テレビ会議システム等に分散していた機能を集約して、多様なコンテンツを配信できるようにした。また、学生を様々なカテゴリーにグループ分けし、統計資料を見ながら指導が出来るようにした。

<<<<<<<休憩 14:20～14:30>>>>>>>>

4. 14:30～14:50

テーマ：生物系・臨床系教育研究における ChemDraw の活用

植沢 芳広（臨床薬剤学教室）

要 旨：薬学の教育研究においては、分野に限らず医薬品等の化学構造の提示を必要とする機会が極めて多い。当大学は Cambridge 社とのライセンス契約によって、教員、学生ともに ChemDraw Ultra を自由に使用することができる大変恵まれた環境にあるが、創薬系教室以外に配属された学生・大学院生に有効活用されているとは言えないようである。そこで、今回はこの優れたソフトウェアを中心として生命科学分野における構造情報の活用事例を紹介したい。

5. 14:50～15:10

テーマ：英語の授業および自発的学習のための英文サイト

林 弘美（英語・英語学研究室）

要 旨：英文サイト“Healthology”(<http://www.healthology.com/>)を取り上げ、英語の授業での活用法、および、学生の自発的学習を促す方策について発表したいと思います。また、前回の発表で取り上げたCD-ROM教材やポッドキャスト等と比較し、それぞれの利点を活かしていく方法にも触れたいと思います。

6. 15:10～15:30

テーマ：情報処理演習の授業評価

和田 義親（薬学教育研究センター）

要 旨：平成18年度から薬学部6年制のスタートし、情報処理演習は必須科目として1年生前期に配置された。一方、この年度から高等学校で教科「情報 A,B,C」を履修した学生が入学する最初の年であり、教科「情報」を未履修の浪人生を含めて IT リテラシーに大きな差があると思われる。そこで、今年度の情報処理演習では学生の IT リテラシー状況を把握することと授業評価するために、授業毎に学習目標チェック（アンケート&クイズ）を行なった。

7. 15:30～15:50

テーマ：演習課題の満足度と到達度

新井 恵子^o（薬効学教室）、井上 忠也（物理学）、浦辺 宏明（生化学）、

田中 靖子（病態生理学）、兎川忠靖（分析化学）、菱沼 滋（薬効学）

中原 伸輔、和田 義親（薬学教育研究センター）

要 旨：学生の IT リテラシーや学習内容への興味には個人差あり、全ての学生が満足できるような学習目標は立てにくい。演習形式の授業は個人のペースで学習するので、幅の広い学習目標を設定することで多くの学生の興味や進捗に対応することが出来る。情報処理演習では教材を全てウェブページにすることで、個々の学生のペースと興味に対応した。その結果、今回の授業では到達度に関わらず満足感を得ていると言える。